

# 第1学年 算数科学習指導案

## 1. 単元名 たしざん

## 2. 単元の目標

- ・10のまとまりに着目することで、繰り上がりのある加法計算ができることを理解する。  
(知識、理解)
- ・1位数同士の計算が確実にできる。(技能)
- ・算数ブロックや言葉を用いて計算の仕方を表現したり工夫することができる。(考察)
- ・繰り上がりのある足し算の計算の仕方を既習の学習を踏まえ考えようとしている。  
(関心・意欲・態度)

## 3. 指導観

本単元は1位数同士の繰り上がりのある足し算であり、計算を行う際に10のまとまりを作り、10といくつという考え方を理解し使えるようになることがねらいである。算数ブロックや図などを使った算数的活動を通して、児童自ら計算のしかたを考え、考えたことを説明できるようにしたい。そのためには10を作るための数の合成、分解が十分に理解できているかが重要である。学習を進める中で、既習した学習内容を生かさないかと考えたり、計算のしかたを自ら考えられるような“数学的な考え方”につながる指導をしていきたい。また、1位数同士の足し算は、算数の計算において基礎であり、それらを“できる”、“使える”ことを目標にしたいと考える。

## 4. 児童観

既習の足し算、引き算にも慣れつつあり、計算の仕方や速さが身につけてきている。これまでは、繰り上がりのない足し算を行ってきた。本単元では10のまとまりを作る考え方で繰り上がりについて学んでいく。その際、算数ブロックを操作することを繰り返し言葉によって説明することで、10の数をつくる考え方の良さを実感できるようにする。10のまとまりを作るための数の合成、分解を繰り返し行うことで、10のまとまりを作るという考え方を使えるようにしたい。

## 5. 教材観

本単元は学習指導要領の第1学年の内容「(A)数と計算、(2)加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。イ1位数と1位数との加法及

びその逆の減法の計算のしかたを考え、それらの計算が確実にできること。」を受け設定されたものである。繰り上がりのある1位数同士の加法を学習する。繰り上がりのある計算の場合は、加数分解や被加数分解といった方法で10のまとまりを作り、10といくつとする計算に気づかせることをねらいとする。1位数同士の加法計算は、これから後に学習する加法の基礎となることから、十分に習熟する必要がある。

## 6. 指導計画(全13時間)

時	学習内容	評価規準
1	9+4の計算の仕方(加数分解)を考える。	・既習してきた加減計算や数の構成を基に、計算の仕方を考えようとしている。(意)
2	被加数が9の場合の計算の仕方(加数分解)を考える。	・計算の仕方を考え、算数ブロックの操作や言葉等を用いて説明することができる。(考)
3	被加数が8の場合の計算の仕方(加数分解)を考える。	・加数分解による計算が確実にできる。(技)
4	被加数が8, 9の場合の計算の練習を行う。	・被加数が大きくても10のまとまりを作ればよいことを理解している。(知)
5	被加数が7の場合の計算の仕方(加数分解)と練習を行う。	
6	3+9の計算の仕方(加数分解)を考える。	・加数、被加数の大小に関係なく10のまとまりを作ることに着目し、言葉やブロックを用いて説明できる。(考)
7	1位数+1位数で繰り上がりのある計算の練習、文章題の解決を行う。	・1位数同士の繰り上がりのある加法計算は、10のまとまりを作ればよいことを理解できている。(知)
8 ～ 12	計算カードを様々な活動で用いて加法計算の練習を行う。	・1位数同士の繰り上がりのある加法計算が確実にできる。(技)
13	学習内容の理解(仕上げ)	・基本的な学習内容を身に着けることができている。(知)

## 7. 本時の目標(第6時)

1位数同士の繰り上がりのある加法計算で、10のまとまりを作るための方法として被加数を分解して計算する方法(被加数分解)があることを知り、計算ブロックや言葉などを用いながら10といくつという計算の仕方についての理解を深める。

8. 本時の指導案(第6時)

学習内容と活動	発問(○) 予想される児童の反応(・)	留意点(△) 評価(□)
<p>1. 導入(問題演習)</p> <p>1 から 9 の数が、あといくつで 10 になるかを考える。</p>	<p>○あといくつで 10 になりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1 です。</li> <li>・3 です。</li> <li>・7 です。</li> </ul>	<p>△1 人ひとりに当てていき、10 を作る計算が出来ているかを確認する。</p> <p>□10 の数を作る計算が出来ている。(技)</p>
<p>2. 問題把握</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>たまごはあわせてなんこですか。けいさんのしかたをかんがえましょう。</p> </div> <p>○どのような式になりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>3+9</math> です。</li> </ul> <p>○どうしてたしざんになりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あわせるからです。</li> </ul>	<p>□式を自分で考えることができている。(考)</p> <p>□なぜそのような式ができたかを説明することが出来ている。(理)</p>
<p>3. 自力解決</p>	<p>○算数ブロックを使って考えてみましょう。</p> <p>○3 と 9 のどちらが 10 にしやすいか考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3 を 1 と 2 に分ける。</li> <li>・9 を 7 と 2 に分ける。</li> </ul>	<p>△ブロック操作や図など、どのような方法で取り組んでいるのかを机間指導を行いながら把握し適宜助言を行う。</p> <p>△3 と 9 のどちらが 10 にしやすいかを考えさせる。</p>
<p>4. 集団解決</p>	<p>○それでは、どのように考えましたか?説明できる人。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、3 を 1 と 2 に分けます。そして、1 と 9 を先に足して 10 のまとまりを作ってから 2 を足します。</li> <li>・まず、9 を 7 と 2 に分けます。そして、3 と 7 を足して 10 のまとまりをつくってから 2 を足します。</li> </ul>	<p>△加数分解だけではなく、被加数分解も新しい考え方として位置付ける。</p> <p>△加数分解、被加数分解のどちらの考えも認める。</p> <p>□10 を作る計算の仕方に着目できている(考)</p> <p>□10 のまとまりをつくり、計算することができている。(技)</p> <p>□自分の考えを算数ブロックや、言葉によって説明できる。(理)</p>

<p>5. まとめ</p>	<p>○どの考え方がわかりやすかったですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3を1と2に分けるやり方がわかりやすかったです。</li> <li>・どちらの数を10にするか迷いました。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>10のまとまりをつくとけいさんできる。</p> </div>	<p>△10のまとまりを作る良さに気づけているか確認する。</p> <p>△どちらの計算のしかたも、10のまとまりを作っているということを気付けるような言葉がけを行う。</p>
---------------	--	--

(板書計画)

めあて けいさんのしかたをかんがえよう。  
 もんだい たまごはあわせてなんこですか。

たまごの 写真



3



9

$$3 + 9 = 12$$

$$\begin{array}{r} 3 \\ 9 \\ \hline 12 \end{array}$$

2 1

3を1と2にわける。

$$3 + 9 = 12$$

$$\begin{array}{r} 3 \\ 9 \\ \hline 12 \end{array}$$

7 2

9を7と2にわける。

けいさんのしかたをかんがえよう。

$$3 + 9 = 12$$

$$\begin{array}{r} 3 \\ 9 \\ \hline 12 \end{array}$$

10

$$3 + 9 = 12$$

$$\begin{array}{r} 3 \\ 9 \\ \hline 12 \end{array}$$

10

10のまとまりをつくる。

